

令和3年8月4日

# futbol y vida

Poco a poco ...  
Poco a poco ...



選手権に向け第一弾トレーニング終了!!  
八月上旬はサッカーにどっぷり漬かる!!

## 地区ユースリーグ&TRM主体の七月が終了!!

### 八月上旬はサッカーと向き合う時間を増やし選手権に向けて準備する!!

夏休みと同時に、東京オリンピックもスタートし、連日熱い戦いが各種目で繰り広げられています。そのせいなのか、七月下旬はあっという間に過ぎてしまったように感じます。新型コロナの影響で、今回のオリンピック開催に関しては賛否両論ありましたが、やはりこの期間、チャンネルはオリンピック、日本代表の選手の活躍が気になり観戦しています。現在、日本は過去最多の17個の金メダルを獲得するなど、地元の利も活かされていい結果を出しています(8/1終了時)。サッカー日本代表も決勝トーナメントでPK合戦の末準決勝に進出。次戦は、優勝候補のスペイン代表とメキシコオリンピック以来53年ぶりのメダルを賭けての闘いとなります。サッカー強国スペイン代表に勝って金メダルを狙いたいものです!!



<NZをPK戦の末破る>

### “ピンチ”を“チャンスに”!! 合宿・遠征ゲームの代替えメニュー作成!!

さて、チームは夏休み突入後から七月下旬に行われた“夏のトレーニング期間第一弾!!”が終了しました。本来であれば、恒例の菅平合宿での走り込みが終了し、東京に戻って再び高温多湿への「暑熱順化」をして、八月上旬から行われる湘南・埼玉フェスティバルに参加する準備をしているところです。しかし、今年度も新型コロナウイルスの影響により残念ながら二年連続で参加を見送ることになりました。他県チームとAWAYゲームで闘う貴重な経験を失うことはチーム(子どもたち)の成長にとって大きな損失です。この危機的状態を乗り越えるために知恵を絞り出した結果その代替えとして、“夏のトレーニング期間第二弾”は、片倉高校のグラウンドをフルに利用して、通い合宿的に午前TR&午後TRMの日やフェスティバル形式同様のTRM連戦を設定し、トレーニング強度は例年よりもかなり落ちますが、現状況下で選手権と地区リーグ戦に向けてやれるべき最低限の準備を行っていきたいと思います。

また、合宿や遠征には多くのK's football staffがサポートに菅平まで来ていただきますが、今年の夏は片倉グラウンドにスタッフが集結し、アプローチはコーチ陣様々であります。子どもたちの指導に当たっています。夏休み中はサッカーと向き合う時間がたくさんあります。課題解決だけでなく、自分の長所に磨きをかけて絶対に負けないものをひとつでも多く作って欲しいものです。もちろん直ぐには結果は出ません。しかし、結果が出て出なくてもそこに向かって努力することが大事なのです。できないことも、実は知らないだけであり、できるまで諦めずにチャレンジしていくことが大切なのです。「天才とは1%の閃きと、99%の努力である」(T. エジソン)

## オリンピック選手から学ぶ「感謝」の心

東京オリンピックでの日本選手団の活躍は連日目覚ましいものがあります。特に柔道では、史上最多となる**9個の「金」**メダルなど合わせて**12個**のメダルを獲得しました。選手だけではなく、日本柔道界を盛り返した代表監督の**井上康生監督**の手腕も高く評価されています。また、**阿部一二三**、**詩選手**は柔道初めてとなる兄妹揃って同日金メダルを獲得、73キロ級では二連覇を果たした**大野選手**、新種目の混合団体の銀メダルなど話題の尽きない柔道日本代表の闘いでした。



＜柔道日本代表、12個のメダルを獲得＞

水泳では、白血病の闘病生活を乗り越え奇跡的にオリンピックの舞台に立ち、今大会メドレーリレーなど3種目に出場した池江璃花子選手。最後の400mメドレーリレーでは、本職のバタフライで泳ぎチームは8位入賞を果たしました。

さて、闘いを終えた後、メディアセンターで勝負に関わらず選手はインタビューを受けます。誰が見ても、競技直後はキツイだろうと思います。しかも、負けた後のインタビューは厳しいものがあります。しかし、そこは国を代表するアスリートたち。各メディアのインタビューに対して真摯に気丈に対応します。メンタルの強さはさすがですね。

今回、各選手のインタビューで一番多く感じたのが「この状況の中で大会運営に当たっている関係者の方々、チームスタッフの方々、一緒にトレーニングをしてくれた仲間、支えてくれている家族」に対する**感謝の言葉**です。また、二連覇を果たした大野選手は、優勝が決まった瞬間ガッツポーズもせず会場の天井をじっと見つめていました。敗者へのそして対戦相手へのリスペクトの気持ちの表れだと思います。優勝後のインタビューでは「**リオのオリンピックを終えて苦しく辛い日々を凝縮したようなそんな一日でした。**」と語っていました。この五年間の連覇へのプレッシャーは私たちには計り知れないものがあつたと思います。しかし、「**私の柔道人生は井上康生監督とともにあつた。**」という感謝の気持ちや「**オリンピック開催には賛否涼口なることは理解していますが、われわれアスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば本当に光栄に思います。**」と自分が感じていたプレッシャーを抑えて、日本中のスポーツファンの人たちへの励ましとなるメッセージを送りました。今回の柔道日本代表監督である井上氏は「**技術的なこともそうですが、やはり心構えの部分大切です。心技体と言いますが、やはり心が備わっていないければ強くなるものも強くなれないと思います。**また、人間力の部分も大きくかかわってくると思います。例えば、目上の方に対する礼儀とか挨拶、何かをしてもらったときに感謝の気持ちを伝える。一見当たり前の事なんです、意外とできていないことがあると思います。」と、選手育成のポイントについて話されていました。どの世界に於いても、自分自身をしっかりマネジメントできる人間が勝負の世界でも、この先の人生でも勝っていける一つのポイントだと思います。



＜五輪二連覇の大野翔平選手＞

アスリートの言葉だけではなく、何かを必死に取り組んでいる人の言葉は心に響きます。

子どもたちにも、日頃多くの場面で支えてくれている家族、指導スタッフ、対戦相手チーム、一緒に厳しいトレーニングを乗り越えている仲間に対し「**感謝**」の気持ちを大切にしたいものです。出来れば、言葉に表して「**ありがとう**」の一言を伝えて欲しいものです。